



濱田 純一 (はまだ・じゅんいち) 東京大学総長

時代は今、大きな変化の時を迎えています。それに対して、大学や学問は、変化をよりよい方向にリードしていく、重要な役割を果たすことを求められています。東京大学では、こうした社会からの期待に応えるべく、『東京大学の行動シナリオ-FOREST2015-』を作成し、昨年4月からスタートさせました。

この中では、重点的に取り組むべきテーマの一つとして「学術の多様性の確保と卓越性の追求」を挙げ、「世界最高水準の卓越した研究を遂行する」、「国際発進力を強化し、総合研究大学としての国際的プレゼンスを高め、大学間連携や学術を先導する」ことなどを達成目標として設定しています。

これらの目標を達成するための具体的取組の一つとして、このたび、「東京大学国際高等研究所」を新たな全学組織として設置しました。同研究所には、「世界を担う知の拠点」たるにふさわしい研究機構を置き、東京大学全体の学術の卓越性の向上及び国際化を強力に推進することとしております。

東京大学では、新たに設置した国際高等研究所の活動を含め、日本の未来、世界の未来に対する公共的な責任を果たして参る所存です。皆様方には、東京大学の学術研究にいっそうのご理解とご支援を賜りますよう、この機に改めてお願い申し上げます。 (2011. 1. 1)



岡村 定矩 (おかむら・さだのり)

東京大学国際高等研究所長

このたび、濱田総長より、新たな全学組織として設置された東京大学国際高等研究所長に指名され、責任の重さに身の引き締まる思いです。

本研究所の略称は、TODIAS としました。これは、英文名称であるTODAI Institutes for Advanced Studyを略したのですが、TO DIAS と分割するとすばらしい意味を持ちます。DIASは、ギリシャ語ではオリンポス十二神の主神であるゼウスの別名、スペイン語では「日、毎日」という意味であり、TO DIAS は「神へ」あるいは「良き日々のために」となります。世界レベルで新たな学術を創成し、人類の文化・生活の向上に貢献するという、本研究所の理念にぴったりの略称です。本研究所のロゴマークには、正式名称を伴うものと、マークと略称だけのものという二つのバージョンがありますが、いずれも、東大のシンボル「銀杏の葉」をモチーフに、曲線のおだやかな字体を組み合わせることで、開かれた印象をつくりだしています。マークと略称だけのものは、銀杏の葉が文字のDを縫うように貫通して力強い活力を感じさせます。

TODIASには、(1) 世界トップレベルの研究拠点として公的機関や研究者コミュニティ等に評価されていること、(2) 運営を賄うに十分な外部資金を獲得していること、および (3) 国際的な研究環境を構築していることの三つの要件を満たす研究機構を置き、人事・給与等の学内ル

ールを緩和することなどにより、その活動を強力に推進することとしています。

2011年1月11日に開催されたTODIASの第1回運営委員会において、これらの要件を全て満たす研究機構として、「数物連携宇宙研究機構 (IPMU)」が適当であるとの意見がとりまとめられ、これを踏まえ、TODIASに置く研究機構の第一号として、同機構を決定しました。同機構は、文部科学省の「世界トップレベル研究拠点形成プログラム」への採択を契機に2007年10月に発足しました。そこでは数学者と物理学者と天文学者が協力して、人類が数千年にわたって考えてきた根源的な宇宙の謎に挑んでおります。発足以来、村山斉機構長の卓越したリーダーシップの下で着実に成長し、現在では専任研究者の約6割の外国人研究者を擁し、当該分野の世界の研究者コミュニティに広く認知され、まさに「世界を担う知の拠点」の一つとなっております。

TODIASは、IPMUがより安定的な体制の下で迅速かつ柔軟に、これまでもまして活発な研究活動を展開できるよう支援するとともに、第二、第三と引き続き研究機構を設置することにより、東京大学全体の学術の卓越性の向上及び国際化を先導してゆきたいと考えています。

(2011. 3. 9)

東京大学国際高等研究所のロゴと組織図



東京大学国際高等研究所 (2011年1月1日設立)

